

「行政マネジメントにおけるアウトカム設定の考え方」
(静岡県立大学経営情報学部 北大路信郷)

1. アウトカム評価の目的

- a. 行政の品質管理：費用対成果（生産性）の向上
- b. 政策の説明：政策目的（課題）の説明と合意形成
- c. ガバナンス：パートナーの役割認識、協働による達成目標の共有

2. 社会目的の達成におけるアウトカムのレベル

(例) 社会的課題と取り組むべき要因の体系

・課題 = 交通事故の削減

要因 01：運転者の能力水準

0101：安全に対する動機水準

0102：技能水準

0103：心身機能水準

要因 02：車の性能水準

0201：構造・基本性能

0202：整備水準

要因 03：道路交通環境

0301：自然環境（天候、災害、）

0302：利用状況（混雑、歩行者、）

0303：道路整備水準

030301：道路基本性能・構造

030302：道路（交通安全）施設整備状況

030303：道路維持管理水準

3. アウトカム目標の設定における注意点

- (1) 目的 a（行政の品質管理）のためには、行政活動の貢献度（インパクト）が明らかなレベルを選ぶべき。貢献度が希薄であると品質改善ができない。
- (2) 目的 b（政策の説明）のためには、上位のアウトカムを選ぶべきだが、上位レベルのアウトカム目標達成において、行政の責任は限定的であるという認識を共有すべき。
- (3) 組織の任務目的達成度を個人の業績評価と直接連動させると成果志向が敬遠される。

4. アウトカムの選定と評価情報の利用に関する注意点

- (1) 目的 c（ガバナンス）の高度化においては、課題の体系化と課題へ取り組むための作戦策定作業が重要だが、その作業に多くの異なる関心を持つステークホルダーが参加すべき。
- (2) 一つの政策手段が複数の社会目的に貢献することが少なくないが、特に基盤整備事業（eg. 情報ネットワーク整備、道路建設など）は同時にいくつものアウトカムに対して効果を持つため、関係する複数アウトカムに関する総合的な評価情報が必要。
- (3) アウトカム評価情報が十分整備されても、異なるアウトカムに対してどの程度の資源（予算）を投入するかを自動的に決めることはできない。